

花組の保育室には、ダンゴムシを置いていました。保育者は卒園児が大事に愛着を持って育てていたダンゴムシを、引き続き子どもたちと観察などできたらと考え、連れてきていたのです。入園(進級)当初から保育室にいたダンゴムシに興味を示している様子の子どもたち。“自分でも捕まえてみたい！！”とダンゴムシを探す姿がよく見られるようになりました。



ダンゴムシいるかな…



プランターの下にダンゴムシがいました。ナメクジとヤスデもいて「これは何？」「怖い？」と言いながら恐る恐る近づいて観察していました。

ダンゴムシがたくさんいるスポットを発見！！



いっぱい捕まえました！



保育室にはダンゴムシについて書かれている本があり、繰り返し見ては「ダンゴムシの足は14本なんだよね！」「お花を食べるんだ」などの知識を吸収したり、ダンゴムシが丸まる様子を真似したりしていました。



ダンゴムシのまねっこ！

ダンゴムシを公園でも発見！！
珍しい真っ白のダンゴムシも見つけました！！



園庭で見つけたダンゴムシを部屋の虫かごの中に入れ、観察する子どもたち。園庭に落ちていた青くて小さく、未熟な柿の実や葉っぱをダンゴムシは食べるのかどうか気になっていたため、同じ虫かごの中にその柿の実と葉っぱも入れていました。

後日どうなっているのか子どもたちはとても楽しみにしていました(^^)

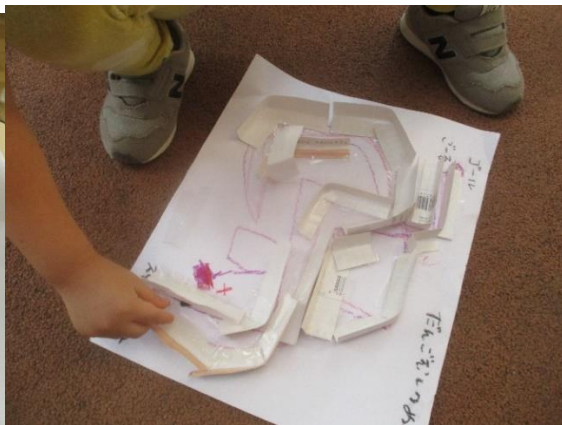
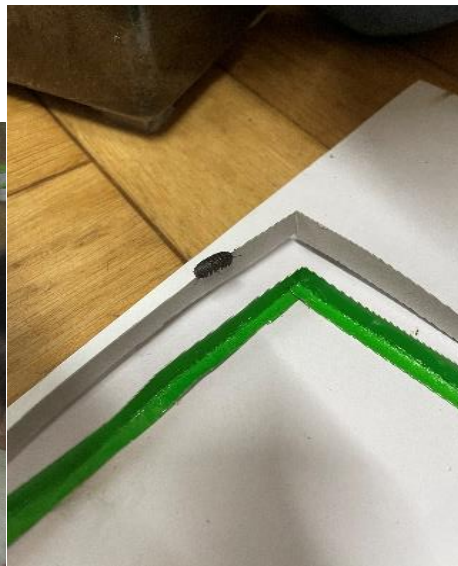
引き続き観察し、子どもたちと一緒に様々な発見をしていきたいです！



数日後、柿の実を食べていることに

気付いている子がいました！





ずっとダンゴムシの観察をしたり、本を見ていた1人の子から「ダンゴムシの迷路を作りたい！」という発言がありました。近くにいた子が反応し「YouTube で見たことあるよ!」と話していたため、一緒に作ってみることに！保育者が廃材を細く切り、子どもたちが画用紙にのりを使って貼りました。「どんな道にする？」と保育者が問いかけると、「まっすぐだと簡単すぎるよ。」「行き止まりも作ったらいいんじゃない?」「YouTube で見た時はゴールにチーズ置いていたよ。」「じゃあ葉っぱ置いてみようよ!」などと、子どもたち同士で話が広がっていきました。

完成した迷路に実際にダンゴムシを歩かせてみると、「ちゃんと進んでる!」「あ！外出ちゃった!」などなど、子どもたちはとても興味津々な様子で観察していました。

「紙に迷路書いたら歩くのかな。」と発言した子がいて、紙にクレヨンで描いた迷路にも歩かせてみることに！しかし、クレヨンで描いた道は歩かず・・・。「やっぱり壁がないと歩けないのかもしれないね。」と、新たな発見もありました。



友だちがダンゴムシ迷路を作っている姿を見て、ダンゴムシ用のウォータースライダーを書き、ダンゴムシを実際に歩かせていました。しかし、ダンゴムシは思ったようには進まず…。

「壁付けてくる!」と言い、付けに行きました。





友だちが作っている姿を見てダンゴムシ迷路に興味を持った子が多く、「私／僕もやりたい！」

と言い作り始めました。まずはクレヨンで迷路を書き、細く切った廃材や段ボールをボンドで貼り、道を作っていきます。「トンネル作りたい！」「ここは行き止まりなの。」など、それぞれが好き

なように自分だけの迷路を作っています。

身近な存在のダンゴムシ。ダンゴムシとの関わりを通して、どこにいるのか考えて探す力、興味を持ったものを観察したり、調べたりする探究心、気になったことをやってみようとする挑戦心が芽生え、育っていることを感じました。また、迷路作りは子どもたちの発信からどんどん広がっていき、たくさんの迷路が完成しました。その中で、自分の知っていることを友だちに教えたり、自分の考えや予想を伝えたりと子どもたちのやり取りも活発に行われていきました。ダンゴムシとの関わりを通して、多くの学びや発見、体験をして、成長に繋がったと思います。